

子どもの学びを保障するために

布瀬めぐみ (大和市議)

再開された学校生活に おける心のケア

新型コロナウイルスによる約3ヶ月の休校は、子どもと保護者に大きな影響を与えました。学校再開後、スムーズに新たな生活をスタートさせた家庭もあれば、そうではない家庭もありました。実態把握と、心のケアが必要です。

への調査を行っていません。すべての子どもと保護者への配慮が必要と考えるべきです。不安や困りごとなどを具体的に把握し、寄り添った支援へ繋げていくために、早急な実態調査の実施を要望しました。

人的支援の必要性

しかし市は、子どもたちの生活習慣や心の変化などについての記入式アンケートや、保護者

休校中に広がった子どもたちの学習の格差に対して、今までの以上に個別の対応を必要とされています。そのためには、教員

や学習支援員などの追加配置が必須です。教育委員会は、取り組むべき課題の一つとして、国の動向を注視しながら、検討していくと答弁しました。しかし、子どもの学びの時は、待つてはくれません。早急な配置が必要です。

地域・家庭との 連携の重要性

休校中、コミセンや学習センター、こども食堂など、地域にある子ども居場所は、閉じられた状態でした。学校は休校直後から、親の相談を受けた子どもを、児童クラブとは別に教室で預かり、多くの子どもたちは居場所を持つことができませんでした。

しかし、私が受けた連絡に

よると、様々な事情で家にいることができず、公園で長時間過ごすことで、地域の大人から注意を受けた子どもがいました。休校中の子ども居場所の確保は十分とは言えない状態だったといえます。

多くの問題を抱えた学校を、学校だけの課題とせず、地域・家庭、様々な関係機関、例えば福祉部局等と連携し、情報を共有し合い、「チーム学校」で取り組んでいくべきです。



チーム学校のイメージ

学校や教育委員会が中心となり、このネットワークを強化することで、地域の人材や物的資源の活用、子どもの居場所の確保など、様々な問題の解決に迅速な対応ができるので

はないでしょうか。今こそ子どもたちの学びを連携して支える時です。

◆布瀬めぐみの一般質問はホームページでもご覧いただけます。こちらのQRコードからお入りください。



高齢者 福祉・介護の今後

くにかね久子 (大和市議)

施策の見直し議論が 始まります

第7期の計画が策定されて3年が経過し、来年4月からの第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定に向けた議論が始まります。

6月議会では、第7期を検証し、8期に盛り込むべき事項について質問しました。

大和市の「地域づくり」 を検証

団塊世代が、介護認定を受け始める2025年に向けた財政状況から、介護保険のサービ

らせない高齢者が今後増えてきます。地域で支え合う仕組みが必要となります。その支え合いの地域づくりを検討する場が協議体です。

大和市は第2層協議体を15ヶ所設置するとしてきましたが、3年かかって現在5ヶ所です。課題を検証し、早急に対応すべきです。

ニーズの高い 移動支援サービス

第7期計画では、ニーズの高かった移動・外出支援サービスの実施について「検討する」と記載されていますが、生活援助や移動支援はいずれも取り組みが進んでいないと言えません。第8期には制度化することが必要です。

介護予防ポイントの活用

介護保険制度に基づく介護予防ポイント事業は、市が制度化すれば、ご近所同士の送迎でも使えるようになりました。しかし、現在大和市では施設内に限られ、在宅を支えるボランティアには適用されません。

ニーズに合わせ事業を拡大するなど、第8期計画に「地域づくり」の将来像を盛り込むよう要望しました。

◆協議体とは、正式名は助け合い・支え合いの地域づくり協議体。市全体で運営する第1層協議体と地域で運営する第2層協議体があります。地域の課題や住民同士が無理なく参加できる助け合いの仕組みづくりについて話し合う場。現在、下鶴間、つきみ野、南林間、中央、福田北の5地域に設置されています。

おしゃべりサロン (議会報告会)の お知らせ

議会や市政の報告をし皆さんからお話を伺う場です。お気軽にご参加ください。(直接会場にお越し下さい)

8月19日(水)	10:00	ポラリス 会議室3
8月26日(水)	13:30	つきみ野学習センター 303会議室
9月8日(火)	10:00	桜丘学習センター 104会議室

感染拡大防止のため会場が閉鎖された場合は、中止となります

◆くにかね久子の一般質問はホームページでもご覧いただけます。こちらのQRコードからお入りください。



次号
まちづくりレポート
10月発行